小学校国語科の「書くこと」における「おおむね満足できる」状況の見取り方の研究

――　客観的な見取りに生かせる「見取り方参考例集」の開発　――

長期研修員　　鳥塚　嘉紀

《研究の概要》

本研究は、小学校国語科の「書くこと」における指導事項の「おおむね満足できる」状況を達成した児童の姿を、教師が明確に想定することができることを目指したものである。教師が、指導事項の「おおむね満足できる」状況を達成している児童の姿を明確に想定し、授業や評価に生かせる客観的な見取りができるように「見取り方参考例集」を開発した。「見取り方参考例集」では、全ての指導事項ごとに、言語活動例に合わせて指導事項を達成した児童の姿を示した。

「見取り方参考例集」を活用することが、指導事項を達成した児童の姿を教師が明確に想定し、客観的に見取ることに有効であることを明らかにした。

キーワード　【国語－小　書くこと　見取り方　指導と評価の一体化】

群馬県総合教育センター

分類記号：Ｇ０１－０２　令和３年度　２７６集

Ⅰ　主題設定の理由

「小学校学習指導要領解説総則編」（平成29年３月公示）では、単元や題材などの内容や時間のまとまりを見通して、その中で育む資質・能力の育成に向けて、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を進めることが示されている。授業改善に当たっては「１回１回の授業で全ての学びが実現されるものではなく，単元や題材など内容や時間のまとまりの中で，学習を見通し振り返る場面をどこに設定するか，グループなどで対話する場面をどこに設定するか，児童生徒が考える場面と教師が教える場面をどのように組み立てるかを考え，実現を図っていくものであること」が留意して取り組むべきこととして挙げられている。さらに、学習評価の充実については、「児童のよい点や進歩の状況などを積極的に評価し，学習したことの意義や価値を実感できるようにすること。また，各教科等の目標の実現に向けた学習状況を把握する観点から，単元や題材など内容や時間のまとまりを見通しながら評価の場面や方法を工夫して，学習の過程や成果を評価し，指導の改善や学習意欲の向上を図り，資質・能力の育成に生かすようにすること」との記述がある。評価における課題に目を向けると、「児童生徒の学習評価の在り方について（報告）」（平成31年１月）においては、学校や教師の状況によっては学期末や学年末などの事後での評価に終始してしまうことが多く、評価の結果が児童生徒の具体的な学習改善につながっていないことが例として挙げられている。このことは、学習評価の改善を図り指導と評価の一体化の実現のために作成された「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料」（以下、「参考資料」）において、「学習指導要領の改訂の趣旨を実現するためには，学習評価の在り方が極めて重要であり，すなわち，学習評価を真に意味のあるものとし，指導と評価の一体化を実現することがますます求められている」との論述へとつながっている。

こうした国の方針を受け、群馬県教育委員会発行の「令和３年度学校教育の指針」においても、確かな学力を育成する手段として指導と評価の一体化の充実が示されている。また、「はばたく群馬の指導プランⅡ」においては、指導と評価の一体化を意識した単元のつくり方を示すことで、「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指している。

教師は、学習指導要領で示された指導事項を児童が達成できるような授業を行う必要がある。教師が単元を構想する際に設定する「おおむね満足できる」状況の評価規準は、学習指導要領の指導事項を基に作成することとされ、「参考資料」においても明確にその手順が示されている。このことから、児童が「おおむね満足できる」状況に達したかを的確に捉えて客観的に見取ることは非常に重要であると言える。上記資料においては、見取りのための具体的な児童の姿を想定した例も紹介されている。しかし、そこで紹介されている例は４例であり、評価の３観点は網羅しているものの、指導事項ごとに児童の姿の具体例を見ることはできない。現状では、具体的にはどのような児童の姿が見られたら「おおむね満足できる」状況なのかをはっきりさせないままに、曖昧な見取りを基に評価を行っている様子も見られる。教師による児童の見取りが曖昧では、児童に身に付けさせたい資質・能力に沿った手立てを効果的に行うことができない。そこで、「書くこと」の全ての指導事項を網羅した「おおむね満足できる」状況を達成した児童の姿の具体例があれば教師の助けになると考え「見取り方参考例集」を開発することとした。「見取り方参考例集」において、指導事項を達成した児童の姿を示すことで、教師が小学校国語科の「書くこと」における「おおむね満足できる」状況を達成した児童の姿を明確に想定することができ、客観的な見取りに生かせるようになると考え、本研究の主題を設定した。

Ⅱ　研究のねらい

小学校国語科の「書くこと」の指導事項の「おおむね満足できる」状況を達成した児童の姿を教師が明確に想定できるように、どのような児童の姿を見取るかについて示した「見取り方参考例集」を開発し、活用することの有効性を明らかにする。

Ⅲ　研究の内容

１　基本的な考え方

(1)　「書くこと」における「おおむね満足できる」状況とは

「書くこと」を指導事項とする単元において、目指す資質・能力を身に付けた状態が「おおむね満足できる」状況である。

単元の評価規準を作成する手順は「参考資料」によって示されている。国語科における思考力、判断力、表現力等の指導事項は、文末を「～している」とすることで、「おおむね満足できる」状況の評価規準とすることができる。このことから、学習指導要領で示されている指導事項が身に付いた状態が、「おおむね満足できる」状況になると捉えられる。

(2)　見取り方とは

見取り方とは、授業時の児童の反応やノート、ワークシート、作品等で表出された具体的な児童の姿から、評価のために学習状況を確認する方法であるとする。

「参考資料」の中で示された評価規準作成のポイントでは Step１～Step５の流れで授業を構想し、評価規準を作成する手順を示している。そのStep５「評価の実際と手立ての想定」において、「それぞれの評価規準について，実際の学習活動を踏まえて，『おおむね満足できる』状況（B），『努力を要する』状況（C）への手立てを想定する」とされている。このことから、評価を行う際は評価項目を基に、実際の学習状況を見取って評価することが求められていると捉えられる。

２　「見取り方参考例集」の概要

「書くこと」の授業づくりの課題として、評価が教師の指導改善や児童の学習改善につながっていないことや評価が教師の主観に左右されてしまうといったことが挙げられる。このような課題の解決のためには、教師が児童の学習の成果を的確に捉えることが重要である。しかし、国語科は扱う言語活動によって表出する児童の姿が異なるため、扱う言語活動に合わせた想定をする必要があり、教師にとっての負担が大きい。「見取り方参考例集」では、言語活動例ごとに作成すると共に、指導事項を達成した具体的な児童の姿を実際の学習活動を取り入れた形で示すことで、教師が想定しやすいようにした。

「見取り方参考例集」で指導事項を達成した児童の姿を例示することにより、単元計画を立てる場面において、教師はその姿を明確に想定することができる。それにより教師は、指導事項を達成した児童の姿をゴールとして、どのような学習活動を行えばよいかを適切に設定できるようになる。また、指導事項と指導事項を達成した具体的な児童の姿とを並記することによって、評価規準を作成したり、指導事項を意識しながら単元計画を立てたりできる。授業の場面においては、「見取り方参考例集」を基に想定した指導事項を達成した児童の姿と実際の児童の姿を照らし合わせることで、各単位時間の児童の学習の成果を的確に捉えて客観的に見取ることができ、教師の指導改善や児童の学習改善につなげることができる。また、想定した指導事項を達成した児童の姿を児童と共有することで、児童自身が学習調整を図りながら学習を進めることができる。評価の場面においても授業の場面と同じように、「見取り方参考例集」を基に想定した指導事項を達成した児童の姿と実際の児童の姿を照らし合わせることで、達成しているか達成していないかを客観的に見取って評価することができる。

「見取り方参考例集」の作成においては、教師が授業を構想し実施する際の三つの場面、「単元計画を立てる場面」「授業の場面」「評価の場面」においての活用を想定した。「見取り方参考例集」を活用することで、指導事項を達成した児童の姿を教師が明確に想定できるようになることを目指した。教師が指導事項を達成した児童の姿を明確に想定することにより、「書くこと」における授業づくりの課題改善が図れるようにする。

(1)　単元計画を立てる場面での活用

単元計画を立てる場面では、指導事項から身に付けさせたい資質・能力を明確にし、言語活動例を参考に言語活動の設定を行う。「見取り方参考例集」では、各学年の言語活動例ごとに、指導要領の指導事項や学習過程と具体的な見取り方の参考例を１ページに収めることで、教師にとって使いやすいものとなるようにした。指導事項が記載してあるので、文頭に「『書くこと』において」と加え、文末を「～している」と変えることで評価規準とすることができる。指導事項の内容を実際の活動の様子を加えて示すことで、教師が指導事項の「おおむね満足できる」状況を達成した児童の姿を明確に想定できるようにした。指導事項を達成した児童の姿が明確になることで、目指すべきゴールが明確になり、各時間の学習活動を教師が適切に設定できるようになる（図１）。

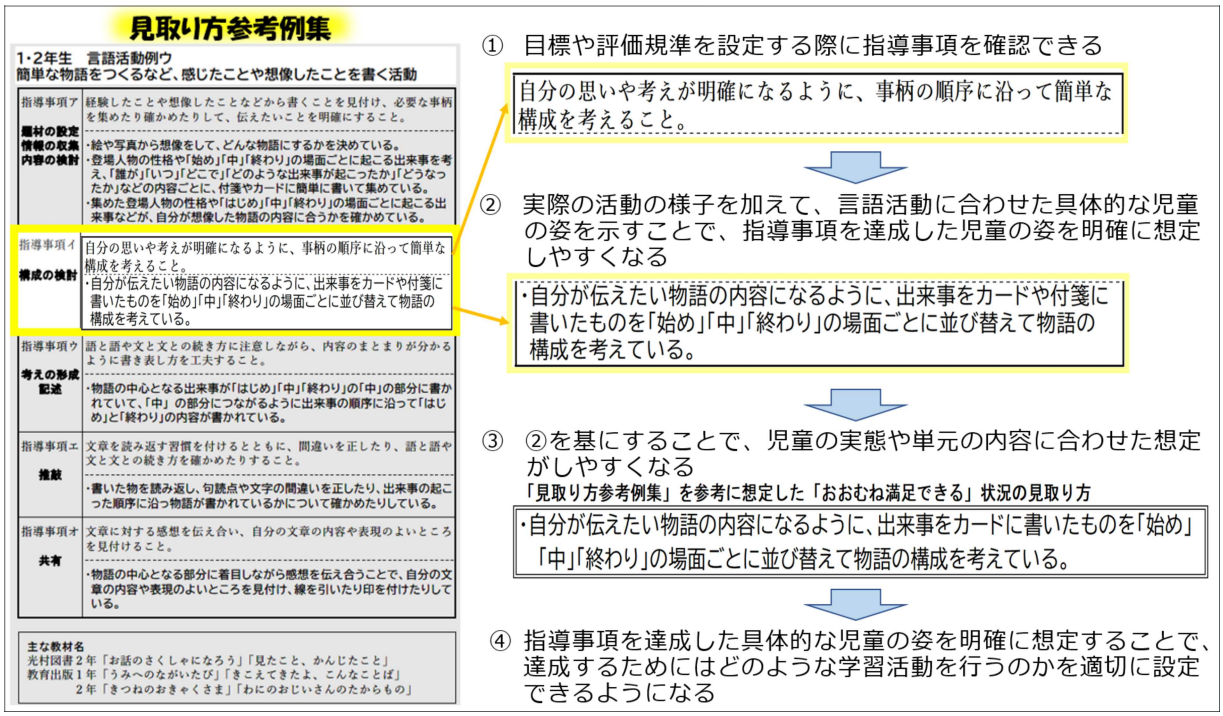


図１　単元計画を立てる場面での活用

(2)　授業を行う場面での活用

授業を行う場面においては、「見取り方参考例集」を基に想定した指導事項の「おおむね満足できる」状況を達成した児童の姿と実際の児童の姿を照らし合わせることで、各単位時間における達成状況を客観的に見取ることができ、教師が適切に授業改善や児童への学習支援を行いながら授業を進められるようになる。また、想定した姿を目標として児童と共有したり、活動する際の観点として示したりすることにより、児童自身が、想定した姿を目指して学習の調整を行いながら主体的に学習に取り組むことができる（図２）。授業において「見取り方参考例集」を活用することで指導と評価の一体化が図られた授業ができる。

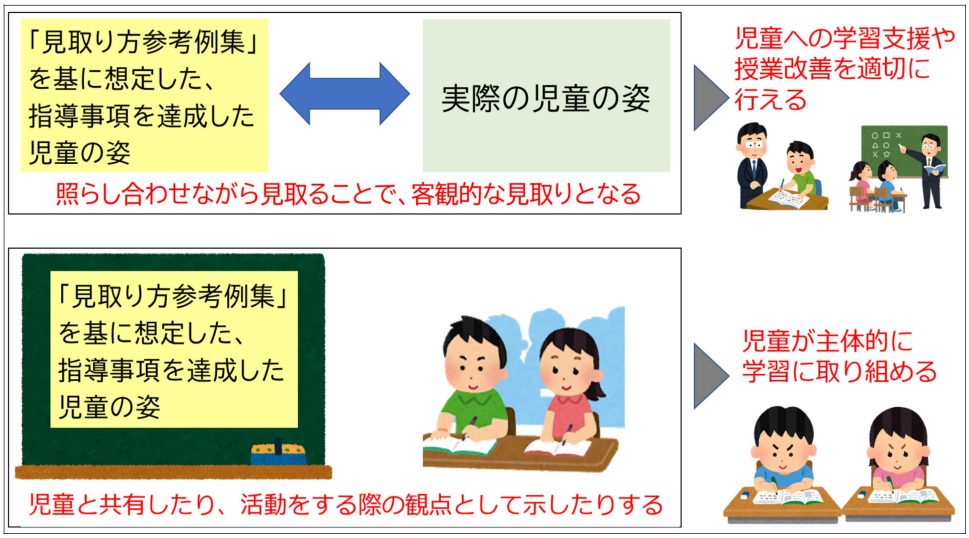


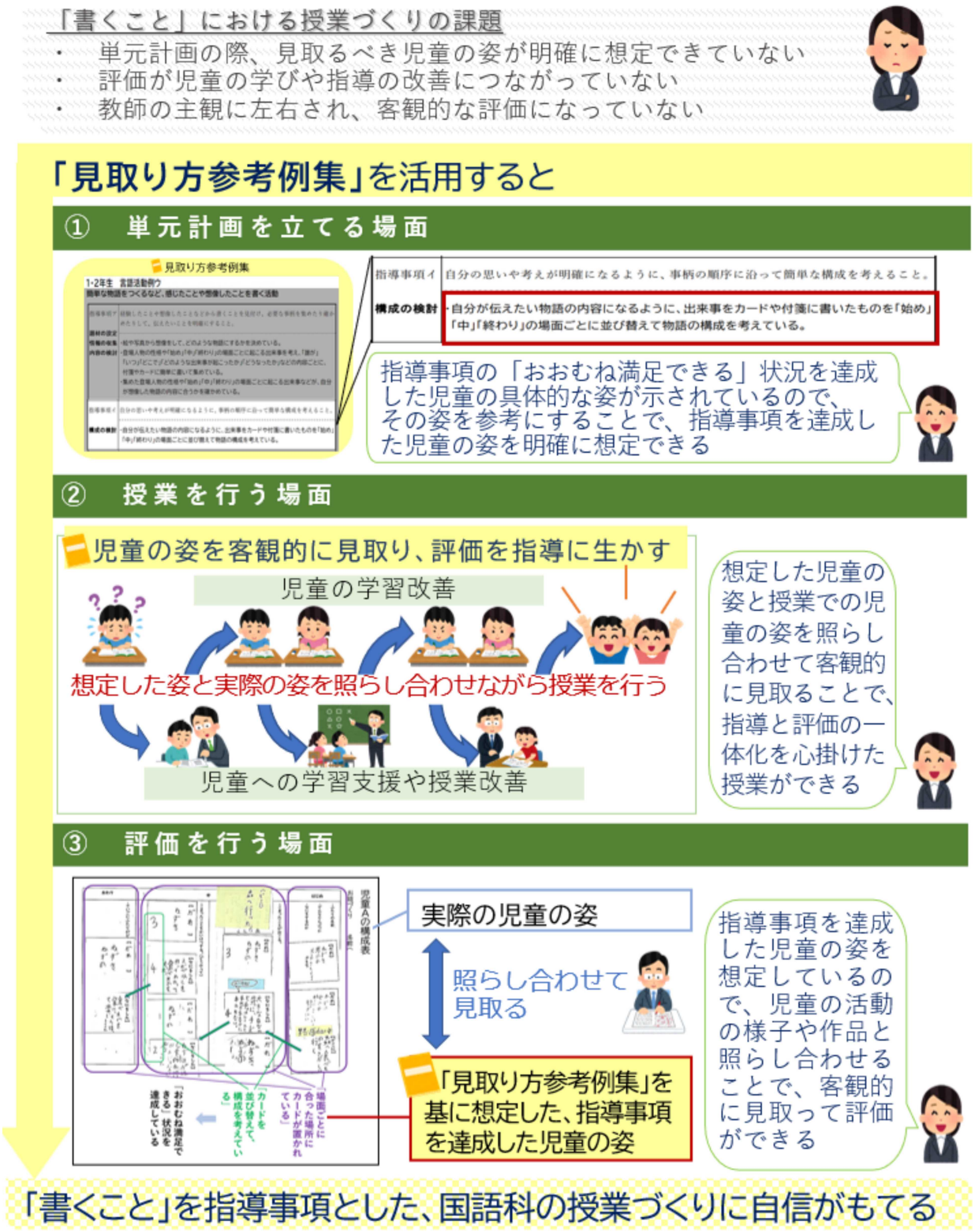
図２　授業を行う場面での活用

(3)　評価を行う場面での活用

評価を行う場面においては、「見取り方参考例集」を基に想定した児童の姿と活動の様子や成果物などを照らし合わせることで、「おおむね満足できる」状況を達成しているかどうかを客観的に見取って評価に生かすことができる。

また、「見取り方参考例集」においては、指導事項を達成した具体的な児童の姿で示しているため、想定した姿を細分化して見取る方法も行いやすくなっている。

3　研究構想図



Ⅳ　研究の計画と方法

１　実践の概要

「小学校学習指導要領解説国語編」（平成29年７月）の「書くこと」における各学年の言語活動例ごとに、指導事項の「おおむね満足できる」状況を達成した具体的な児童の姿を示した「見取り方参考例集」を作成した。研究協力校（以下、協力校）において各学年の担任が、「見取り方参考例集」を活用した「書くこと」の単元の授業実践を行った。授業実践後には、評価のための客観的な見取りや単元計画を立てる際の手助けとなっているかについての聞き取りを行った。聞き取りの内容を分析し、教師にとって使いやすい「見取り方参考例集」となるように改良を行った。「見取り方参考例集」の作成における実践内容及び実践方法については以下のとおりである（表１）。

表１　「見取り方参考例集」の作成における実践内容及び実践方法

実　践　内　容	実　践　方　法
過去の授業実践における評価のための見取り方の収集と分析	「見取り方参考例集」を作成するに当たり、例示する内容の妥当性や客観性を高めるために、優れた授業実践における実際の見取り方を学年や指導事項ごとに広く収集した。収集した実践例を基に、どのような見取り方で評価をしているかを分析した。
「見取り方参考例集」と「書くこと」の単元計画案及び１単位時間ごとの授業展開例の作成	各学年の言語活動例の指導事項ごとに、「おおむね満足できる」状況を達成している具体的な児童の姿を示した。 「見取り方参考例集」を活用した単元計画案と授業展開例を作成した。
「見取り方参考例集」の活用と改良	協力校において、各学年の担任が「見取り方参考例集」を活用した「書くこと」の単元の授業実践を行った。 活用した感想を聞き取り、結果を分析して改良した。

２　検証計画

協力校において授業実践をしてもらい、評価に関わる時間の授業参観を行った。その後、実践を行った各担任に対して以下の三つの場面において「見取り方参考例集」が役立ったかどうかを検証の視点として聞き取りを行った。

① 単元計画を立てる場面において、目標や評価規準の設定、指導事項を達成した児童の姿の想定や学習活動を適切に設定することに役立ったか。

② 授業を行う場面において、指導と評価の一体化を図りながら授業を進めることに役立ったか。

③ 評価をする場面において、目標とする指導事項の「おおむね満足できる」状況を児童が達成しているかについて客観的に見取ることに役立ったか。

３　実践

(1)　過去の授業実践における見取り方の収集と分析

「小学校学習指導要領解説国語編」の「書くこと」における各学年の言語活動例ごとに、指導事項の「おおむね満足できる」状況を達成した具体的な児童の姿を示した「見取り方参考例集」を作成した。

「見取り方参考例集」で例示する内容の妥当性や客観性を高めるために、大学の附属小学校や各都道府県の教育センター等の研究で行われた実践を中心に収集した。指導事項を基に言語活動に合わせた具体的な児童の姿を想定している実践例について、「おおむね満足できる」状況を達成している姿を授業の中でどのように見取ったのかについて、全学年の言語活動例の指導事項ごとに区分して収集した。

収集した約 100例の授業実践における見取り方を基にして、「おおむね満足できる」状況をどの

ような児童の姿で想定しているのかについての分析を行った。指導事項の文言で伝わる部分はそのまま生かしながら、単元で扱う言語活動に合わせて児童の姿を想定している実践が多かった。また、指導事項の「明確に」や「筋道の通った」「工夫する」という部分を児童の具体的な姿や活動方法で示している実践も多かった。さらに、同じ指導事項であっても、言語活動によって想定する児童の姿が異なっていた（図４）。

このような分析結果から、「指導事項の表記を生かせる部分は表現を変えない」「指導事項の表記で具体的な姿で示した方が分かりやすい部分は、児童の活動の様子を加えて示す」「言語活動に合わせた姿で示す」を「見取り方参考例集」の作成方針とした。

１・２年生　指導事項ウ
語と語や文と文の続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫すること。

言語活動例ア
身近なことや経験したことを報告したり記録したりするなど、見聞きしたことを書く活動

２年生　単元名「こころにのこったできごとがつたわるように書こう」　佐賀県教育センター

＜見取り方＞
順序を表す言葉、または詳しくする言葉のどちらかを使って書いている。（記録文）

言語活動例ウ
簡単な物語を作るなど、感じたことや想像したことを書く活動

２年生　単元名「まとまりに分けてお話を考え『三まいの紙しばい』を書こう」　神戸市教育委員会

＜見取り方＞
「初め」と「終わり」とのつながりを意識して、「中」で起こる出来事を考えて組み立てメモを書いている。（発言・組み立てメモ）

指導事項が同じでも、言語活動の違いによって表出する児童の姿が異なるため、児童の姿を言語活動に合わせて想定している

５・６年生　指導事項イ
筋道の通った文章になるように、文章全体の構成や展開を考えること。

６年生　単元名「世代による言葉の違いについて意見文を書こう」
「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料　国語」

＜見取り方＞
資料から収集した情報と、その情報から分かったことが対応しており、全体として筋道の通った構成を考えている。（作成した文章構成表）

指導事項の「筋道が通った文章となるように」という部分が、具体的な活動の様子で示されている

図４　学年や指導事項ごとの授業実践における見取り方の収集と分析

(2)　「見取り方参考例集」の作成

同じ指導事項であっても、単元で扱う言語活動によって表出する児童の姿が異なるため、教師は「おおむね満足できる」状況を達成した児童の姿を言語活動に合わせて想定する必要がある。そこで、収集した実践例を参考にして、指導要領で示された「書くこと」の三つの言語活動例の指導事項ごとに、「おおむね満足できる」状況を達成している具体的な児童の姿を示した（次ページ図５）。言語活動例ごとに作成することで、単元で扱う言語活動に合った児童の姿を教師が想定する際の補助資料となることを目指した。

作成に当たっては「具体的な児童の姿を示す際に、指導事項から外れないようにする」「教師が見取りやすいようにできるだけ具体的な児童の姿で示す」ということに特に留意した。また、教師が単元計画を立てる際に使いやすいように、学年ごとの言語活動例、指導事項、想定した具体的な

児童の姿、学習過程、教材名を１ページに収めた。必要な情報をまとめて記載することで、教師が単元計画を立てる際に使いやすいものとなることを目指した。

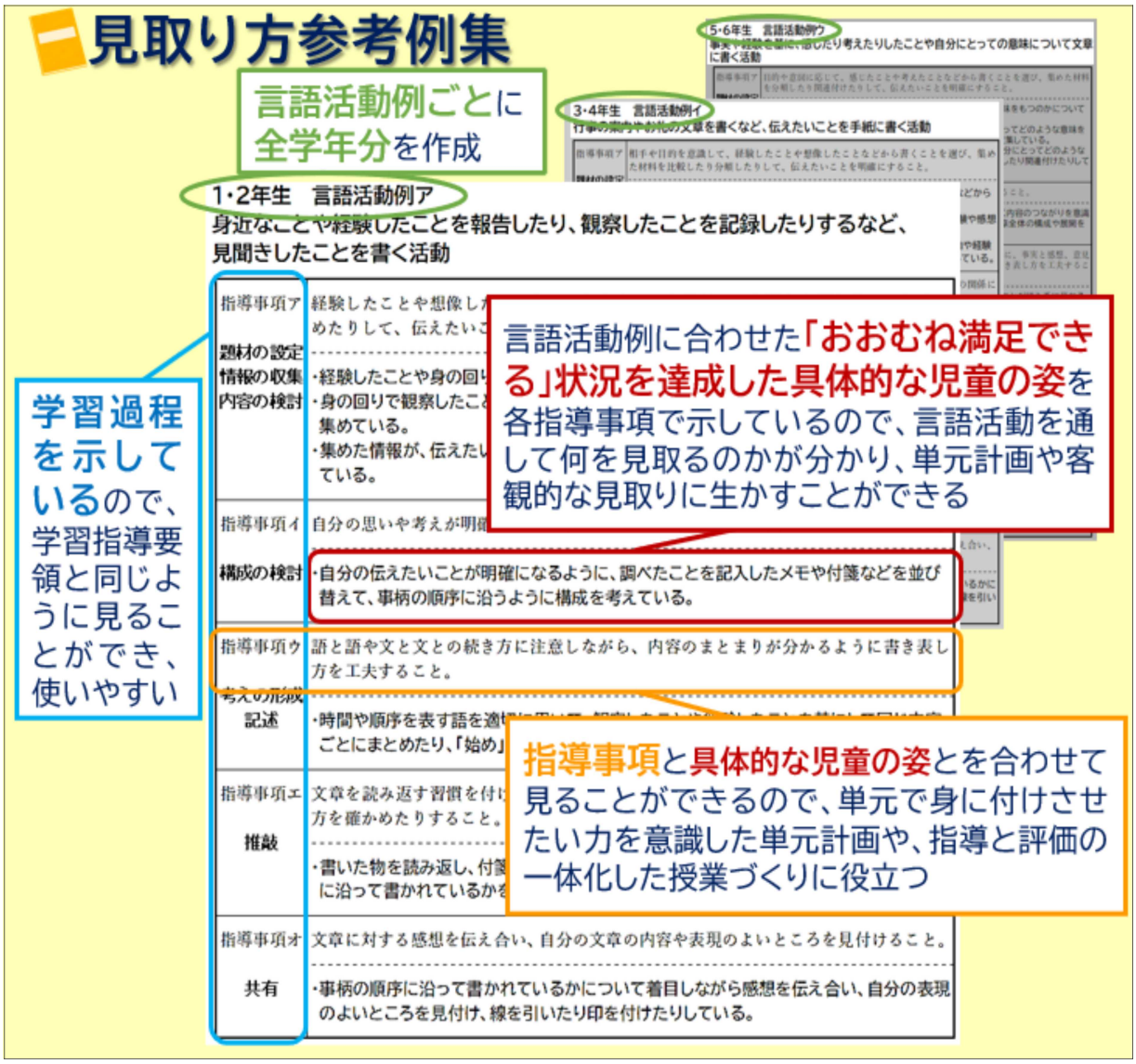


図５　「見取り方参考例集」の一部

(3)　「見取り方参考例集」を活用した実践による検証

「見取り方参考例集」が教師の客観的な見取りに生かせるものとなっているかどうかを検証するために、協力校において、各学年の担任が「見取り方参考例集」を活用した授業実践を行った。授業者と参観者とで児童を見取り、「おおむね満足できる」状況を達成しているかについての確認をした。実践後には、「見取り方参考例集」を活用することで、「単元計画を立てる場面で生かすことができたか」「授業の場面で生かすことができたか」「評価の場面で生かすことができたか」の三つを観点として聞き取りを行い、検証と改善をした。検証は、以下に述べる三つの場面について行った。

①　単元計画を立てる場面

単元計画を作成する際に必要な指導要領の指導事項や言語活動例を載せることで、「見取り方参考例集」の各ページを見れば、目標設定から評価規準の設定、指導事項の「おおむね満足できる」状況を達成した児童の姿の想定までをできるように作成した。

指導事項の「おおむね満足できる」状況を達成した具体的な児童の姿（次ページ図６）を示すことで、教師が指導事項を達成した児童の姿を想定したり、達成するためにはどのような学習活動を行えばよいのかを適切に設定したりできるようになったかを検証した。また、必要な情報を１ページにまとめて記載することで、教師の負担軽減となったかについても検証した。

単元計画　単元名「読み手が納得する意見文を書こう」（第５学年　Ｂ書くこと）
教材名「あなたは、どう考える」（光村図書）

１　単元の目標

・文の中での語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開、話や文章の種類と特徴について理解することができる。（知識及び技能（１）カ）
・目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。（思考力、判断力、表現力等Ｂウ）
・言葉がもつよさを認識するとともに、進んで読書をし、国語の大切さを自覚して、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。（学びに向かう力、人間性等）

指導要領の指導事項が載っているので、文末表現を変えて、単元の目標や評価規準の設定に使うことができる

２　単元で取り上げる言語活動

自分の生活の中から題材を見付けて意見文を書く。

３　単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①文の中での語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開、話や文章の種類と特徴について理解している。（（１）カ）	①「書くこと」において、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。（Ｂウ）	①自分の考えが伝わるように粘り強く書き表し方を吟味し、学習の見通しをもって意見文を書こうとしている。

４　指導と評価の計画（全７時間）

	時	学　習　活　動	指導上の留意点	評価規準・評価方法
つかむ	1	○新聞の投書を読んで、意見文について関心をもち、学習課題と学習計画を立てる。 ○自分の生活の中から意見文の題材となりそうなものを挙げ、その中から題材を決める。	・小学生が書いた新聞の投書読んで感想を出し合い、関心を高める。 ・自分の生活の中で感じた課題や続けたいことについて、友達と意見を出し合うことで、題材の候補を出しやすくする。 ・題材が見つからない児童の参考として児童の実態に合った題材をいくつか用意しておく。	**「評価規準・評価方法」は本単元の「見取り方参考例集」の活用に関わる「思考・判断・表現」の評価のみを記載しています。**
追究する	2	○教科書の例文を読み、自分が意見文を書く際に生かしたい書き方の工夫を見付ける。	・意見の根拠となる事実の部分を抜いた例や反論の事実の部分を抜いた例を提示し、比較することで、読む相手に自分の意見が伝わる書き方の工夫に気付けるようにする。	「見取り方参考例集」を基に「おおむね満足できる」状況を達成した児童の姿を明確に想定することで、達成するための学習活動を適切に設定できるようになる
	3	○集めた自分の意見の理由や根拠を分類・整理して、意見の理由や根拠として説得力のあるものを選ぶ。	・友達と意見交換をすることで、多様な視点から自分の題材について考えられるようにする。	
	4	○読む相手に自分の意見が伝わるように構成を考える。	・字数を500字と制限することで、書く内容と分量を意識しながら構成を考えられるようにする。 ・「考え」「根拠」「反論」など、内容ごとに色分けして付箋に書かせ、それを並び替えて構成の検討ができるようにする。	児童の姿 **【思】** **読み手が納得するように、自分の考えや伝えたいことの根拠の中心となる部分について、体験や出来事、資料や反論を加えて詳しく書くとともに、事実と、感想や意見を区別して書いている。（意見文）**
	5	○構成を基に意見文の下書きを書く。	・事実と意見を書き分けられるように、文末に使う言葉を意識できるように板書しておく。	
	6	○書いた下書きを推敲し、清書する。（本時）	・内容と表記の両方を推敲の観点として板書して示す。	
まとめる	7	○意見文に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付ける。	・自分の意見が読む人に伝わる意見文を書くために重点的に指導してきた部分を、読む際にも意識しながら読み合うよう促す。	

図６　単元計画の例

②　授業を行う場面

教師が「見取り方参考例集」を基に、目標とする指導事項を達成した具体的な児童の姿を明確に想定することで、指導事項から外れることなく授業を進めることができていたかを検証した。ま

た、各単位時間において指導に生かす評価を行う際にも、「見取り方参考例集」で示した児童の姿と実際の児童の姿を照らし合わせて客観的に見取ることで、授業改善や児童支援に生かすことができたかについても検証した。「見取り方参考例集」を基にした具体的な学習活動を教師がイメージできるように、１単位時間ごとの授業展開例を作成した（図７）。その中で、目標を達成した児童の姿を、授業において達成する項目として児童と共有し、単元の目標を意識させながら授業を進める方法を例示した。

読み手が納得する意見文を書こう　第五時

第五時　考えの形成・記述

教科書の意見文の例を参考にして、事実と意見の文末表現の書き表し方を全体で確認し板書しておく。

始め	主張	理由と根拠（事実や体験）
中	反論	反論に対する考えや根拠
終わり	まとめ	

【確認しながら書きましょう】

□自分の主張をはっきり書く

□読み手が納得するように、自分の主張の根拠となる部分について具体的な体験や出来事、資料などを加えてくわしく書く

□反論を取り入れて書く

□事実と、感想や意見とを区別して書く

想定した児童の姿を細分化したものを、下書きを書く段階において意見文を書く際の観点として児童に示すことで、児童が意識しながら書けるようにしましょう。

読み手が納得する意見文を書こう　第六時

第六時　考えの形成・記述・推敲

下書きを書くときに示した「確認しながら書きましょう」を推敲をする際の観点として示すことで、児童自身が観点に沿って推敲できるようにする。

教師も下書きを読み、「見取り方参考例集」を基に想定した児童の姿を達成していない部分については、指導・助言を行う。

清書をする際には、左の四つを観点として書かせる。

□自分の主張をはっきり書いている

□読み手が納得するように、自分の主張の根拠となる部分について具体的な体験や出来事、資料などを加えて詳しく書いている

□反論を取り入れて書いている

□事実と、感想や意見とを区別して書いている

意見文の記述と「見取り方参考例集」を基に想定した児童の姿を対応させて、達成しているかをチェックしましょう。

児童の意見文の記述が、右の四つの項目全てを達成していたら、「おおむね満足できる」状況を達成していると判断することができます。

図７　「見取り方参考例集」を基にした授業展開例の一部

③　評価を行う場面

「見取り方参考例集」で示した児童の姿と実際の児童の姿を照らし合わせ、達成しているか達成していないかを客観的に見取って（図８）、評価に生かすことができたかを検証した。想定した児童の姿を細分化して実際の児童の姿と照らし合わせることで、「おおむね満足できる」状況を達成しているかについて見取る方法を授業展開例で示した。

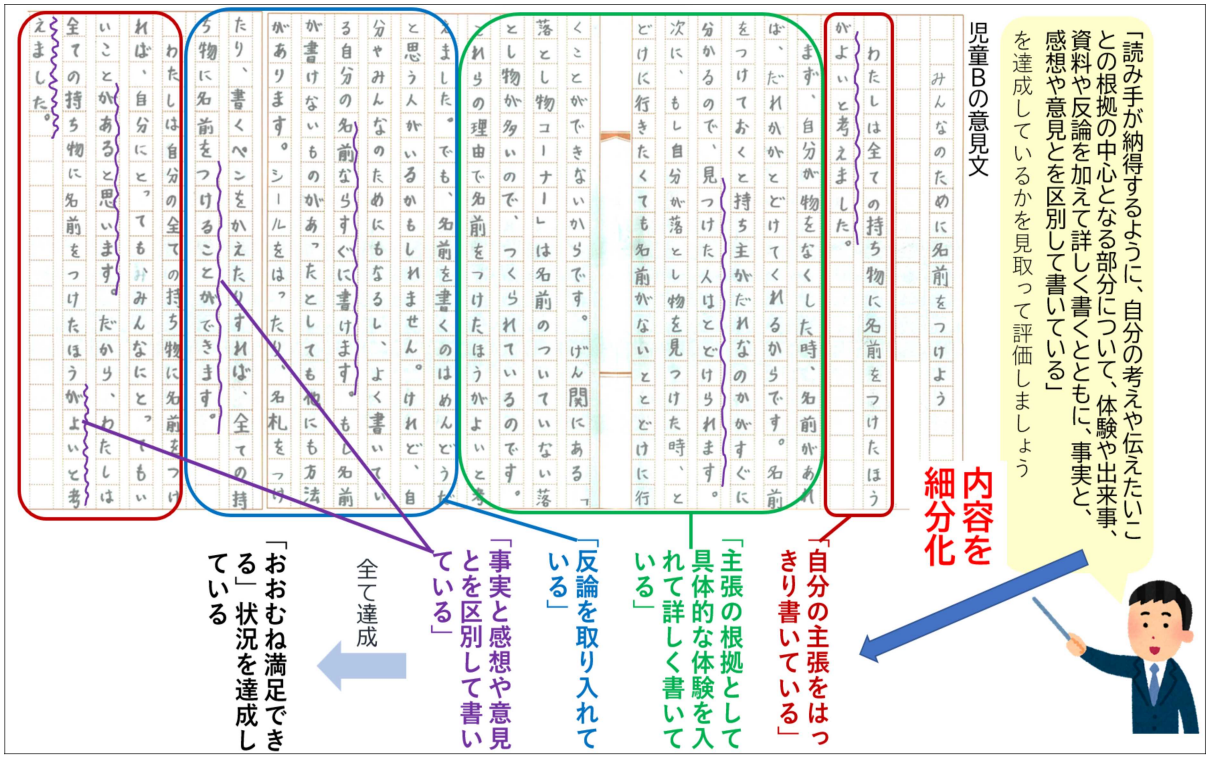


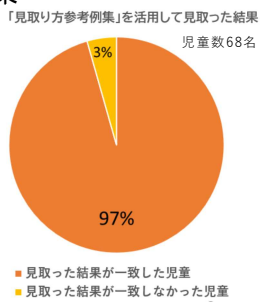
図８　「見取り方参考例集」を活用した見取り方

Ⅴ　研究の結果と考察

１　研究の結果と分析

授業実践後に「単元計画を立てる場面で生かすことができたか」「授業の場面で生かすことができたか」「評価の場面で生かすことができたか」の三つを観点として聞き取り調査を行った。その結果と分析を以下に記す。

(1)　結果

対　　象　研究協力校の１年～６年、特別支援学級の各担任	
「見取り方参考例集」が客観的な見取りに生かされたかについての検証結果 客観的な見取りに生かされたかを検証するために、授業後に授業者と参観者が「見取り方参考例集」を基に同じ児童を見取り、「おおむね満足できる」状況を達成しているかどうかを確認した。 それぞれが見取った結果を照らし合わせて、「一致した」「一致しなかった」についての確認をした。 調査児童68名のうち、授業者と参観者の見取った結果が一致した児童が65名、一致しなかった児童が３名だった。  	
質問事項	○肯定的な意見　　●課題
①　単元計画を立てる場面で生かすことができたか	
普段より単元計画が立てやすかったか	○　指導事項が載っていたので、目標とした指導事項を達成した児童の姿を明確に想定でき、「どのような活動をすれば達成できるか」を考えながら、単元計画を立てることができた。

はい	○　指導事項を基に児童の姿を想定する際の時間短縮になった。 ○　言語活動だけに意識が向くことを防ぐことができた。 ●　指導事項に関わる部分については立てやすかったが単元全体を考えるのは「見取り方参考例集」だけでは難しいと感じた。
授業で行う学習活動を適切に設定できるようになったか はい　いいえ	○　具体的な児童の姿が示されているので、単元の目標となる指導事項を達成するためにはどのような学習活動をすればよいのかを考えることができた。 ○　授業展開例があったので、学習活動の参考になった。
評価のために見取る児童の姿を想定しやすかったか はい	○　言語活動に合わせた具体的な児童の姿で書かれているので、指導事項を基に自分で想定するより想定がしやすかった。
②　授業の場面で生かすことができたか	
単元の指導事項を意識した授業の展開になったか はい　いいえ	○　普段は活動する内容に意識が向いてしまうことが多いけれど「見取り方参考例集」を活用することで、教師も児童も単元の目標の指導事項を意識しながら授業ができた。 ●　単元の指導事項を意識するきっかけにはなったが、授業が進むと、活動する内容に意識が向いてしまった。
「記録に残す評価」だけでなく、「指導に生かす評価」にも活用することができたか はい	○　記録に残す評価の場面までに、児童の姿を客観的に見取り、必要な手立てを十分に行うことができた。 ○　構成を考える段階で、内容のまとまりについての理解が十分でない児童がいたため、次時にグループでお互い説明する時間を設けたことで、友達の協力を受けながらまとまりを意識して構成を考えることができた。 ○　材料集めの際にカードに書かせたが、何を書いていいのか分からない児童が多く見られた。そこで、次時においては、「説明」「紹介」「理由」など、書く項目を記載したカードを使うことで、どの児童も適切な内容を書くことができた。
単元の目標に迫りやすくなったか はい	○　目標を達成していない児童への指導を適切に行うことができ最終的には全児童が目標を達成できた。 ○　想定した目標を達成した姿を細分化したものを「かくにんしながら書きましょう」と書く際の観点として児童にも示すことによって、児童が指導事項を意識して学習を進めていた。 ○　達成すべき姿を明確にして指導をすることで、物語の構成を考える場面において「並べたカードが場面に合っているか」や「順番は合っているか」と友達と熱心に意見を出し合う姿が見られた。 ●　身に付けさせたい指導事項を観点として、読み合ったり、推敲をしたりさせたが、評価の段階でも改善が見られない児童がいた。
③　評価の場面で生かすことができたか	
評価のために見取る際の根拠として有効だったか はい	○　ワークシートや作品を基に評価する際に、「見取り方参考例集」と照らし合わせることで、迷わずに見取ることができた。 ○　想定した児童の姿を細分化し、それを達成したかで見取る方法は、教師の主観に左右されないで見取れるのでよかった。 ●　ワークシートや作品などの記録に残った物で見取る際には有効だったが、授業中の姿を見取るのは難しかった。

④　仕様について	
授業構想や評価をする際に使いやすかったか はい	○　１ページの中に言語活動例や指導要領の指導事項と達成した児童の姿が並記されていて、一度に確認ができるので見通しをもちやすかった。 ○　指導事項を基にして、目標を達成した具体的な児童の姿が示されているので、その部分はとてもよかった。
「おおむね満足できる状況」の児童の具体的な姿の表記は分かりやすかったか はい　いいえ	○　どのような姿が見られれば「おおむね満足できる」状況を達成しているのか、具体的な児童の姿で示されているので分かりやすかった。 ●　「情報の収集」を評価する際に、どの程度集めれば評価できるのかが分かりにくかった。

⑤　その他の意見
○　国語の指導は苦手だったが、やることが明確になったので授業を進めやすかった。 ○　他の「書くこと」の単元でも使ってみたい。 ○　「書くこと」の単元では「考えの形成」に力を注ぐことが多かったが、目標とした指導事項を身に付けさせることの大切さを意識するようになった。 ●　教科書会社の指導書も見ていたため、教科書の進め方と授業展開例の展開が異なり、調整しながら進めるのが大変であった。 ●　授業展開例どおりに進まない場面や教師の手立てがかなり必要な場面があった。

(2)　分析

授業者と参観者の見取った結果が一致する割合が高かったという結果は、「見取り方参考例集」を活用することで、見取る教師が異なっていても「おおむね満足できる」状況を達成した具体的な児童の姿を共通の規準として見取って評価することができたためと考えられる。

また、授業では「見取り方参考例集」を活用することで、単元で身に付けさせるべき指導事項への意識が高まっている様子が教師と児童の両方に見られた。単元計画を立てる場面、授業の場面、評価の場面それぞれにおいて、指導事項を意識して進められたという意見が多く聞かれた。特に、授業を進めていく中で、指導事項を意識して児童に指導を行えたと回答した教師が多かった。

評価が一致しなかった事例を見ると、「見取り方参考例集」に「知識・技能」を見取る内容が入っていて、授業者はそれを含めて見取り、参観者はそれを除いて見取ったために一致しなかった。

分析を基に、「見取り方参考例集」の内容が「書くこと」の指導事項の「おおむね満足できる」状況を達成した児童の姿として適切であるかについて再確認をした。また、「見取り方参考例集」の使い方や授業での活用方法が分かりやすくなるように、「使い方のページ」と「授業展開例」の改良を行った。

２　考察

授業実践を行ったのは、20代の若手から経験豊富な50代まで様々なキャリア段階の教員であり、専門教科は国語以外であった。授業実践において「見取り方参考例集」を活用することで、どの教師も客観的に児童を見取ることができていた。これは、「見取り方参考例集」を活用することで、教師が見取るための明確な規準をもつことができたためと考えられる。

また、どのキャリア段階の教師も「今までよりも単元で身に付けるべき指導事項を意識した授業をするきっかけになった」と回答していた。授業の様子を見ても、単元の重点項目として児童に示したり、繰り返し確認をしたりといった、指導事項を意識した授業展開となっていた。さらに、「見取り方参考例集」を基に想定した、単元で達成すべき児童の姿を児童と共有することで、児童自身が単元で目標とする指導事項を意識しながら学習を進めることができていた。「見取り方参考例集」を基に想定した指導事項を達成した児童の姿を軸として授業を進めることによって、児童を客観的に見取り、授業改善や学習支援に生かして授業を進めることができていた。

「見取り方参考例集」は単元計画を立てるために必要な情報が１ページに収まっているので、計画を立てる際の教師の負担軽減となり、学習活動の見通しやすさにつながったことが分かった。特に、言語活動ごとに全ての指導事項で「おおむね満足できる」状況を達成した具体的な児童の姿を示したことで、教師が指導事項から児童の姿を想定する際の手助けとなっていた。

以上のことから、「見取り方参考例集」は、教師が指導事項を達成した児童の姿を明確に想定することに役立ち、「書くこと」の評価のために客観的な見取りを行う際や単元の目標となる指導事項を軸とした単元計画を立て、指導と評価の一体化が図られた授業を行う際に役立ったと言える。

Ⅵ　研究のまとめ

１　成果

○　指導要領の言語活動例ごとに、指導事項の「おおむね満足できる」状況を達成した児童の姿が示されているので、教師が見取るべき児童の姿を明確に想定することができた。

○　指導事項の「おおむね満足できる」状況を達成した児童の姿を明確に想定できたことで、単元計画を立てる場面において、目標とする指導事項を達成するための学習活動を適切に設定することができた。

○　指導事項の「おおむね満足できる」状況を達成した児童の姿を明確に想定できたことで、その姿と授業での児童の姿を照らし合わせて客観的に見取ることができ、学習支援や授業改善を適切に行いながら授業を進めたり、教師の主観に左右されずに評価したりすることができた。

２　課題

○　単元計画の際に「努力を要する」状況の児童に対する手立てを想定する必要があるが、その具体的な手立てまでは示していないため、教師が想定する必要がある。

○　「見取り方参考例集」は、具体的な児童の姿で示しているが、一例であるため、扱う言語活動や児童の実態に合わせて、教師が児童の姿を再調整して活用する場合がある。

Ⅶ　提言

「見取り方参考例集」を活用することで、指導事項を達成した児童の姿を教師が明確に想定することができた。「話すこと・聞くこと」や「読むこと」の授業においても今回作成した「書くこと」の「見取り方参考例集」を参考にして、指導事項を達成した児童の姿を明確に想定することが大切である。

＜参考文献＞
・文部科学省　『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説国語編』
・国立教育政策研究所　『「指導と評価の一体化」学習指導に関する参考資料　小学校　国語』(2020)
・国立教育政策研究所　『「指導と評価の一体化」学習指導に関する参考資料　中学校　国語』(2020)

＜担当指導主事＞
尾形　一美　　田所　由美子